

優秀賞

ゆるく、コツコツ大作戦

仁川学院小学校 3年 荒木 伶王

「かべ」一言で言っても種類があると思う。高い、低い、薄い、厚い、硬い、やわらかい、見える、見えない、超える、超えられないなど様々だ。かべは障害物のようにたとえられることが多いのではないかと思う。そして、実際にそうだとも思う。

ぼくは今、三年生。いつも母に「全く足りてないで！ぬるい！」とあらゆる場面で言われるので、イラっとするし、悲しくなる。なぜなら、自分の中では考えているつもりだからだ。友達関係、受験、将来の移住、いつかは結婚、つく仕事、給料、親の介ごなど、これはきつと人生のかべに違いないと思って考えている。学年が上がって、最近は塾での時間も増え「めっちゃ大変やん」と、受験について現実味が増してきたところだ。「まさかとは思うが、大変さは正比例するのか？そんな大人になったらどうなるん？ヤバイぼく無理やつ」正直不安しかない。

「ぼく、かべ超えた事あるのかな」と自分に聞いてみた。これまた、「え、ヤバイやん！あまり苦労してない？」と思った。それは変だ、そんなことあるわけない。ぼくは自転車乗るのも七歳まで補助なしには乗れなくて、頑張りきって乗れたはずだ。スピーチコンテストの暗唱や発声練習も必死だった気はする。それをやってる最中は、これ以上ない程大変だった。しかし、思い出してみると、大苦労が、かなり小さな出来事になっていると気づいた。もしかししたら、かべは超えたら途端に大した苦労ではなくなるのかも知れない。

実は、かべは、しんどい時もあるけど、目の前のことを続ける事で、毎日少しずつ超えているのかも知れないと思う。かべがある時は、作戦を考えて攻略する。すぐに無理でも、負けない、めげない、拗ねない、今日がダメでもまた明日、また今度だな。続けていけば「いつか何とかなるもんだろう」と思っているし、今後もそう思ってやるしかないな、とぼくはこう書きながら、独り言を言った。